

ブドウ晩腐病に対する[簡易雨よけ+袋かけ]及び[傘かけ+袋かけ]の防除効果		
<p>[要約]</p> <p>簡易雨よけ（ブドウ樹上にビニール被覆：4月中旬）をし、袋かけ（7月下旬）後にビニール除去する方法と傘かけ（果粒大豆粒大期以降摘粒後：6月下旬）を行い、袋かけ（7月下旬）を行う方法は、ブドウ晩腐病に対して高い防除効果がある。</p>		
農業総合センター 園芸研究所	成果 区分	技術参考

1. 背景とねらい

ブドウ晩腐病は、県内のブドウ主産地において近年多発生傾向にある。防除対策としては、殺菌剤による防除で対応しているが、多発生時には十分な防除効果を得られない。そこで、ブドウ晩腐病に対する物理的防除法として、「簡易雨よけ+袋かけ」と「傘かけ+袋かけ」による防除効果を明らかにし、防除への利用を図る。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 簡易雨よけ、傘かけ、袋かけの方法は、図1のとおりである。
- 2) 簡易雨よけと袋かけを併用処理した区では、平均発病度が2、防除価98と防除効果が高い（表1）。
- 3) 簡易雨よけのみの処理区では、平均発病度が47、防除価52、袋かけのみの処理区では、平均発病度が46、防除価53と、簡易雨よけのみの処理または袋かけのみの処理でも発病軽減効果が認められる（表1）。
- 4) 傘かけと袋かけを併用処理した区では、晩腐病の平均発病度が5、防除価95と防除効果が高い（表1）。
- 5) 傘かけのみの処理区では、晩腐病の平均発病度が18、防除価81と、傘かけのみの処理でも防除効果が認められる（表1）。

3. 成果の活用・留意点

- 1) 簡易雨よけと袋かけは、併用して行うと効果が高い。また、べと病、さび病、黒とう病に対する防除効果も高く、県内のブドウ栽培で発生する主要病害に対して有効な防除対策である。
- 2) 簡易雨よけでは、うどんこ病、ハダニ類、アザミウマ類等の発生に注意し、初期防除を徹底する。
- 3) 梅雨明けが早く、梅雨明け後の気温が平年より高い猛暑の夏は、簡易雨よけではビニールの除去時期が遅れると果実の着色が悪くなるので、気温に応じてビニールの除去時期を決定する。

4. 具体的データ

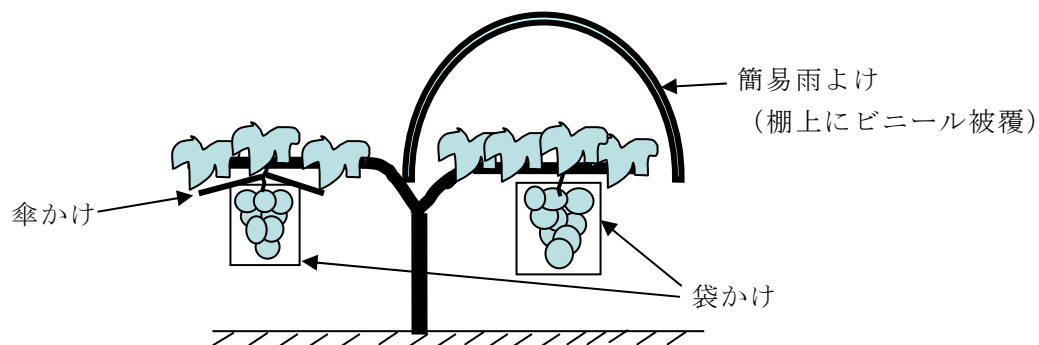


図1 簡易雨よけ、傘かけ、袋かけの方法

表1 ブドウ晩腐病に対する簡易雨よけ、傘かけ、袋かけの防除効果

処 理 方 法			調査果房数 (房)	発病果房率 (%)	発病度 ⁴⁾	防除価 ⁵⁾
雨よけ ¹⁾	傘かけ ²⁾	袋かけ ³⁾				
○ ⁶⁾	—	○	23	7	2	98
○	—	—	23	74	47	52
—	—	○	20	75	46	53
—	○	○	22	10	5	95
—	○	—	22	30	18	81
—	—	—	18	100	97	0

※露地「巨峰」の満開日は、6月3日である。

1) 平成16年4月19日に棚上をビニールで被覆し、7月27日にビニールを除去した簡易雨よけ栽培。

2) 果粒大豆粒大期以降摘粒後の6月24日に傘かけ（乳白色ビニール製：220×220mm）を行い、収穫時まで継続した。

3) 7月26日に袋かけをし、収穫時まで継続した。

4) 8月30日に一斉収穫し、以下の式により発病度を算出した。

発病度 = $\{ \sum (\text{発病指数} \times \text{発病指数別果房数}) / (\text{最大指数} \times \text{調査果房数}) \} \times 100$
 発病指数；0：1果房当たり発病果粒数が0個、1：1～2個、2：3～4個、
 3：5～6個、4：7個以上

5) 防除価 = $[100 - \{ (\text{各区の平均発病度} / \text{無処理区の平均発病度}) \times 100 \}]$

6) ○印は、各処理の実施を示す。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

晩腐病を主体としたブドウ病害の環境に優しい防除法の確立・平成15～17年度・病虫研究室